

心豊かな世代が育つ

童話の里づくり 424

―シリーズ― あなたの人權・わたしの人權

「自分ができるところを」

森中央小学校 6年

藤枝 ちえり

最近、スマートフォンの広まりとともに、ラインやティックトック・フェイスブックなどのSNSを利用する人が増えていきます。

それとともに、今までにないタイプのいじめや差別、誹謗中傷が報告されるようになってきました。

インターネット上では、ツイッターやインスタグラムが「バズる」と、「すごい」などたくさんの人からほめられます。

それとは反対に「炎上」とすると、たくさんの人から一斉に批判され苦しむことになります。

それが原因で自殺する人もたくさん出ているそうです。

このことから言えるのは、人は、少しでも欠点があると、そこばかり指摘して、長所に目が向かなくなる

ということです。

ほかにも、インターネットの中では、「アンチコメント（人を傷つける言葉）」などで、顔のことや体のことを言われ、傷つく人もいます。本当にひどいことです。

最近増えている、「コロナ差別」でも、たくさんの人が傷つけられています。

どれが本当のことかわからないのに、一人が言葉を発すると、みんなが信じて、その人をどんどん傷つけていきます。顔も知らない赤の他人にそんなに言うのは、間違っているとは思います。

コロナ差別では、コロナになった人の家にはり紙がされ、差別や周りの人の目に耐えきれず、その人の親が自殺し、その人自身もうつ病になつてしまったという話を聞いたことがあります。

好きでコロナになったわけじゃないのに、ここまでなってしまうのは、

とても悲しいことです。

差別はSNSの世界の話だけではありません。

私たちの身の周りにも人を傷つける世界はまだあります。

本人が傷つくことを面と向かって言ってしまう人がいます。暴言、なかま外し、いやがらせ。

本当にひどいと思います。

そんなことを言っても誰も得をしないのに、なかなかなくなりません。止められる人もいません。

「やめようよ」と、声に出して言うことは、とても勇気がいることです。

中学になれば、友だちが選べるから無理して解決しなくてもいいかとさえ思ってしまう。

身近なことなのに、いじめや差別を解決することは、本当に難しいことです。

SNSの世界でのいじめや差別をおかしいと思う自分がいます。しかし、一方で現実世界のおかしさを解決できずに苦しんでいる自分がいます。どちらも私です。

「本当に正しいこと」を見つめながら、周りの人に流されない、人を傷つけない強い心の人になりたいです。

*ティックトック…15秒から1分ほどの短い動画を作成して投稿できる。近年、中高生に人気で利用者も多い。

*「バズる」…SNSを介して「口コミで話題になる」とか「情報があつという間に広がる」などの意味で使われる。

この人權作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしております。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別について気づいたことや感じたことを、二〇〇字程度にまとめてみましょう。住所、氏名、連絡先電話番号を記入して（匿名可）、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人權」までお届けください。

